

平成21年 5月 1日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18320127
 研究課題名（和文）
 香川県金山産サヌカイト製石器の広域流通システムの復元と先史経済の特質の検討
 研究課題名（英文）
 Study of the Circulation System and the Characteristic of Economic activities relating
 Sanukite produced at MT.KANAYAM kagawa-pref in Prehistoric age
 研究代表者
 丹羽 佑一（NIWA, Yuichi）
 香川大学・経済学部・教授
 研究者番号：50140471

研究分野：人文学
 科研費の分科・細目：史学・考古学
 キーワード：先史学

1. 研究計画の概要

- (1) 金山サヌカイト原産地遺跡の発掘調査
- (2) 出土遺物の整理分析
 - ①考古学的分析
 - a 技術形態学的分析
 - b 遺跡構造の分析
 - ②岩石学的分析
 - a 成分分析
 - b 力学的性質の解析

2. 研究の進捗状況

- (1) 金山サヌカイト原産地遺跡の発掘調査について
 金山を東西南北の4地域に分け、東に2地点（東1、東2）、他には各1地点（西1、南1、北1）の計5地点に発掘調査区を設け、東1、東2、北1調査区で実施し、コンテナを単位として、東1地点で506箱、東2地点で196箱、北1地点で103箱の出土遺物を得た。
- (2) 出土遺物の整理分析について
 分布調査、東1・2、北1各発掘調査区出土の整理分析を実施した。

3. 現在までの達成度

- (1) 金山サヌカイト原産地遺跡の発掘調査について—やや遅れている
 調査個所の設定は予定通りであり、東2地点で弥生時代のサヌカイト原石採掘坑を推測させる層序を検出しているが、各発掘調査区において、堆積層が厚く、旧石器時代から弥生時代までの石器石材製作の層序学的資料を完成させるための深度である洪積世層に至っていない。
- (2) 出土遺物の整理分析について

①考古学的分析：遅れている

出土遺物量が大量であるため（数万点）、統計的分析ができていない。縄文時代、旧石器時代の分析が不十分である。これは発掘調査が不十分の理由による。

②岩石学的分析：

- a 成分分析：当初の計画以上に進展している。

金山のサヌカイトが成分上、西部と東部で2分できる分析結果を得た。当該研究のための役割を十分に果たす成果である。

- b 力学的性質の解析：遅れている

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 金山サヌカイト原産地遺跡の発掘調査について
 東2、北1地点は21年度の補足調査によって完掘する。
 西1、南1地点の発掘調査は21年度に実施する。
 以上の調査によって当該研究のための遺物収集は十分であり、発掘調査を完了する。
- (2) 出土遺物の整理分析について
 - ①考古学的分析：
 21年度の発掘調査によって得られる弥生時代から旧石器時代の層序資料によって縄文時代、旧石器時代の分析を拡充する。統計的分析は当該研究を進展させる研究にてあらためて実施する。
 - ②岩石学的分析：
 a 成分分析：21年度の西1、南1地点出土遺物によって補足的分析を行う。
 b 力学的性質の解析：21年度の分析

で完了する。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)